

100. よりみち箱

0710920036 山下 哲平
指導教員 市川 尚紀 講師

箱 自然 交流

1. 設計主旨

近年、家の中で遊ぶ子供が増え、外に出て遊ぶ子供が減り自然とふれあう機会が減っている。河川敷や公園が作られているのに利用者はほとんど見られなく、小さい公園ではあまり手入れがされていない場所もある。するとよけいに人が集まらなくなり住民同士の交流も希薄化してくる。

本計画では絶好の遊び場である川に、景色を見せたり、水中を見せたり、河原に下りるきっかけとなる空間を橋の上から河川敷に沿うように作る。橋の上は視界が開け、見晴らしも良いので橋の上から見た人も寄り道する感覚で立ち寄り、人との交流や自然とふれあう機会が増えるような空間を提案する。

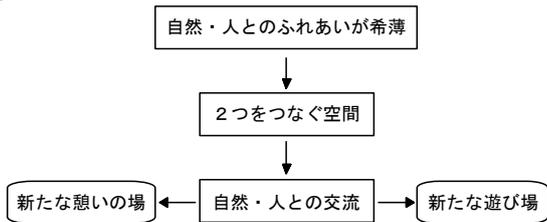


図 1 コンセプトダイアグラム

2. 計画地概要

2.1 計画地

計画地は兵庫県神崎郡福崎町で姫路市の北に位置している内陸の町で、周囲を低山と丘陵に囲まれた小盆地となっており町の中心を川が流れ、町を東西に分断している。

2.2 位置づけ

東部地域は本町の中心市街地で県道三木宍粟線沿道を中心に市街地が形成されており、播磨内陸部の交通の要衝と位置づけられる地区である。西部地域は播磨内陸部の主要な鉄道駅と位置づけられる福崎駅を中心に市街地が形成されており、福崎駅を活用した交通・商業の要衝と位置づけられる地区である。

2.3 現状・問題

- ・コミュニティ施設は多く立地しているが道路網が不十分で施設相互間の利便性が悪い。
- ・手入れされていない公園が多くあり憩いの場が少ない。

- ・見えやすい場所に公園がなく、利用者が決まっているので多くの人との交流に欠けている。
- ・スポーツレクリエーション施設が少なく住民の不満度が高い。

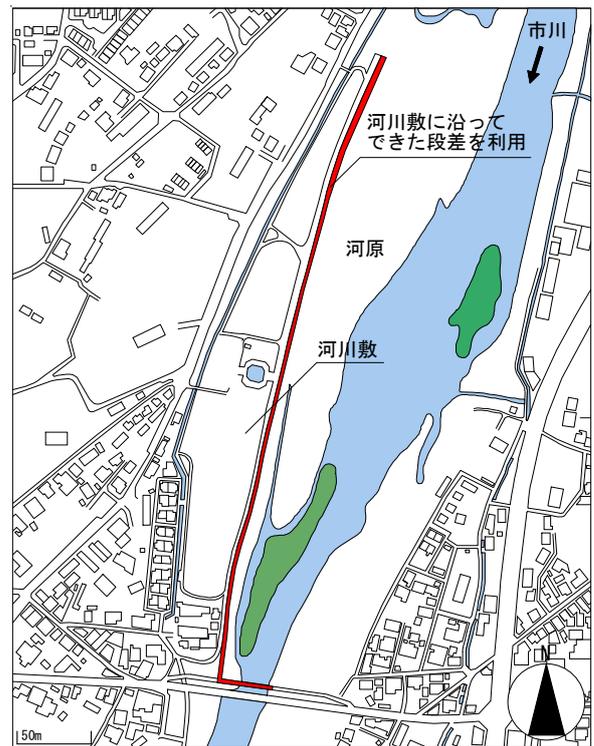


図 2 計画地周辺図

3. 計画内容

3.1 箱の道

大きさの異なる箱を橋の上から河川敷に沿って並べていき、ただの道として通り過ぎるのではなく、ひとつひとつの空間として捉えることで次に進む空間に興味を持たせる。どの場所から箱に入っても違った空間の繋がりを楽しむことが出来る。まっすぐ進むだけでなく地下を通ったり、箱の上を通ったり、同じ場所でも複数の通り方を作ることで遊びを演出する。広い箱では開口から見る事の出来る自然との交流、狭い箱では道の譲り合いから人との交流が生まれる。

3.2 開口

箱には開口があり、川を見る所、空を見る所、地下を見る所がある。外に出られるような場所を作れば自然と人は外に出てくる。そうすることで河原に人が集まり始め、遊ぶことで河原の良さを再認識することが出来る。

3.3 地下

箱を置くだけでは河川敷から川への視界を遮ってしまうので、河川敷にできた段差を利用し半地下にすることで河川敷からの視界は確保され、それによって視点の高さが変わり、地下空間ができる。地下には子供だけが通れる小さな通路を川まで通すことで、川の断面が見えたり魚の泳ぐ姿が見えたりし、川に興味を持つようになる。

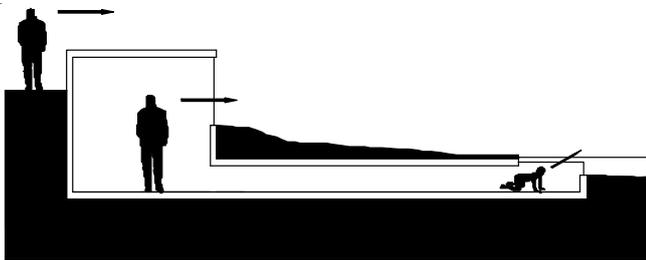


図3 地下断面

3.4 自然を見る

普段生活している中で人はあまり自然を見ていない。家にいる時や仕事をしているとき、人の周りには自然があふれているのに見ようとしていない。遊びや買い物に行く時、仕事の移動中、外にいる時でも視界には入るが見ていない。そこで、移動するついでに空や川などの自然を見ることが出来たら気分も良くなる。橋に上は視界が開け気持ちがいいので橋と河原を繋ぐことでいろいろな自然の見方が出来る。

3.5 自然にふれる

昔から自然は人の周りにあり、自然と共に生活してきたが今では自然に触れる機会が少ない。自然に視線を集めることが出来れば触れることは容易になる。河原に視線を集めるきっかけを作ることで自然と触れあう機会が増える。

3.6 遊び場

川という場所は絶好の遊び場であり、交流の場である。現在は水辺での事故が多いことから川で遊ぶことが禁止されている場所が多い。しかし、適度に管理された場所を作り、安全な遊び場をつくることで安心感が生まれ人が集まりやすくなる。

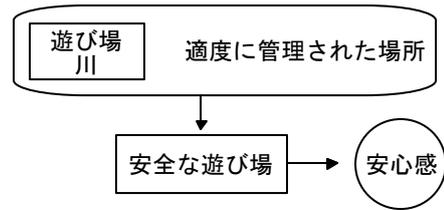


図4 適度に管理された遊び場

3.7 境界線

本計画は河川敷と河原の間に出来た斜面に沿って作っている。すると河川敷と河原の境界線を作ってしまう。そこで、道の途中に斜面を残した場所を作ることで河川敷と河原の境界を無くし一体感を残す。一見分断しているように見えるが繋がりが多く、簡単に河原に下ることが出来る。

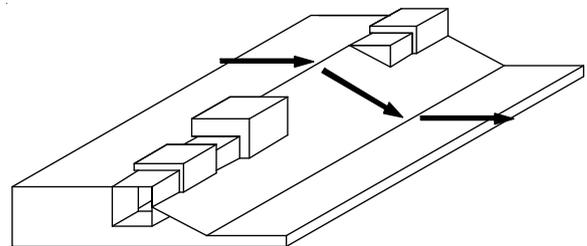


図5 河川敷と河原の繋がり

4. 総括

自然は身のまわりのいたるところにあるが、いつの間にか目を向けなくなり、大人は自然の良さを忘れ、子供は自然の良さに気付かなくなっている。本計画は自然とのふれあいが少なくなった今、人と自然とを繋げるもので、自然や人との交流のきっかけとなる。人が集まらなくなってきた河原に興味を引くものを作り、買い物の途中や散歩をしているときなど、普段の生活の中でよりみち感覚で立ち寄り、さまざまな大きさの箱の道を通り、河原に下りて自然とふれあう。そうすることで次からは河原で遊ぶことを目的として人が集まり始める。一人でも良さに気付くと他の人に情報が伝わり、さらにほかのひとに伝わる。こういったことから人との交流が始まる。これにより忘れられていた自然の良さを再認識し、地域の活性化に繋がれば良いのではないだろうか。

建築概要

所在地：兵庫県神崎郡福崎町

主要用途：公共施設

構造：RC造

規模：低層

敷地面積：1500m²